

# 国史跡 八王子城跡



## 【八王子城とは】

八王子城は、小田原に本拠をおいた<sup>ごほうじょうし</sup>後北条氏の、三代目<sup>うじやす</sup>氏康の三男、<sup>ほうじょううじてる</sup>北条氏照 (?-1590) が築いた山城です。天正10年(1582)頃に築城が開始され、天正15年(1587)頃までに滝山城(八王子市丹木町)から拠点を移したとされます。

豊臣秀吉の関東制圧の一環で、天正18年(1590)6月23日、前田利家・上杉景勝軍に攻められて落城しました。この八王子城落城が決め手となって、本拠の小田原城は開城、氏照はこの時小田原に籠城中で、兄の<sup>うじまさ</sup>氏政と共に城下で切腹し、北条氏は滅亡しました。

八王子城は関東屈指の山城です。氏照が構想していた城郭は壮大で、落城時はまだ未完成であったと考えられています。城は大まかに、城下町に当たる『<sup>ねごや</sup>根小屋地区』、城主氏照の館などがあつた『<sup>きよかん</sup>居館地区』、戦闘時に要塞となる『<sup>ようがい</sup>要害地区』に分けられます。城山は様々な動植物が生息し、四季折々の様子を見ることができます。散策すれば歴史を学ぶとともに、豊かな自然に触れる有意義な時間を過ごすことができます。

## 【八王子神社と地名の由来】

八王子神社は、<sup>こずてんのう</sup>牛頭天王とその<sup>けんぞくしん</sup>眷属神(主神につき従う神々)である八人の王子を祀る信仰とともに、全国に点在します。この城山の八王子権現は、延喜16年(916)に<sup>けごんぼさつみょうこう</sup>華嚴菩薩妙行が祀り、北条氏照が城の守護神としたもので、城の名称や八王子の地名の由来になったとされています。

# 八王子城跡散策マップ

## 1 宗関寺 根小屋



Sokan-ji Buddhism Temple  
 平安時代に華嚴菩薩が開いた寺を、氏照が永禄7年(1564)に再興した寺が前身といわれています。北条氏照百回忌法要の際に中山信治が寄進した宗関寺銅造梵鐘は、市指定文化財となっています。

## 2 北条氏照及び家臣墓 根小屋 Graves of HOJO Ujiteru and his Vassals



氏照の百回忌を機に中山信治によって建てられたものです。氏照は小田原城下で切腹し、現在は小田原駅近くにも墓が残っています。

## 3 ガイダンス施設 根小屋 Guidance institution



八王子城跡見学の拠点として、八王子城と、城主の北条氏照についてわかりやすく学べる施設です。トイレが利用できます。(午前9:00~午後5:00 ※12/29~1/3と臨時休館日を除く)

日本100名城スタンプあります

## 4 大手門跡 5 古道 居館 Ruins of front gate of the castle / Old Path



現在は埋め戻されていますが、昭和63年の調査で門の礎石や敷石が見つかりました。大手門は城の表門にあたり、このあたりが八王子城の正面口であったと考えられます。

古道は戦国時代に御主殿へ入る道として使われてきました。当時は、城山川下流方面へさらに続いていたと考えられます。対岸の道は江戸時代に作られた林道です。



## 6 御主殿の滝 居館 Waterfall of Main Palace



落城時に御主殿にいた北条方の武将や婦女子らが、滝の上流で自刃して次々に身を投じ、その血で城山川の水は三日三晩赤く染まったと伝えられます。

▲管理棟から本丸跡まで  
 所要時間約40分



地区について 八王子城は大まかに以下のようにエリア分けされます。  
 要害地区 戦闘時に要塞となる地区 居館地区 城主氏照の館がありました

## 7 曳橋 居館 Bridge



整備された御主殿跡へ入るための通路として、城山川にかけた橋です。当時はこの位置に簡単な木橋をかけ、その橋を壊すことで敵の侵入を防いだと考えられます。

## 8 御主殿跡 居館 Ruins of Main Palace



氏照の館などがあったとされます。落城後は幕府直轄領や国有林であった経緯から、当時のままの状態が残っていました。発掘調査の結果、建物の礎石や水路跡、多数の遺物が出土しました。現在、礎石などの位置がわかるように復元的整備を行っています。

## 9 虎口 居館 Entrance of Castle



曲輪の出入口のことを虎口といいます。石垣や石畳はなるべく当時のものをそのまま利用し、できるだけ忠実に復元しました。御主殿入口の門は、冠木門といわれ、当時の門をイメージして建てられました。

## 10 金子曲輪 要害 Kaneko Barrier



金子三郎右衛門家重が守備したといわれ、尾根をひな壇状に造り、敵の侵入を防ぐ工夫がなされています。



生活の中心になっていた地区 根小屋地区 城の城下町にあたる地区

## 八王子城跡御主殿の発掘

### 11 小宮曲輪 要害



**Komiya Barrier**  
 狩野一庵が守備したといわれています。天正18年(1590)6月23日の豊臣秀吉による八王子城攻めの際に、上杉軍に攻められ、ここの陥落が引き金となり、山頂の曲輪が次々と破られました。

### 12 八王子神社 要害



**Hachioji-jinja Shinto Shrine**  
 氏照が八王子城築城にあたり、城の守護神とした「八王子権現」が祀られている神社です。

### 13 本丸跡 要害



**Main Enclosure**  
 城の中心で、最も重要な曲輪。平地があまり広くないので天守閣などの大きな建物はなかったと考えられます。横地監物吉信が守備したといわれています。

### 14 松木曲輪 要害



**Matsuki Barrier**  
 中山勘解由家範らがこの辺りを守備していたといわれています。八王子城攻めの際に奮闘しましたが、多勢に無勢で防ぎきることができませんでした。前田利家は家範の武勇をおしみ、助命を申し入れたといわれています。その後、遺された子息は徳川家康に仕え、水戸徳川家の付家老になりました。

どのような遺構が分布しているのかを確認するために、御主殿で発掘調査を行いました。この結果、2棟の大型建物跡や池を配した庭園跡などがみつけられました。建物跡は氏照が政務を行っていた主殿とお客をもてなす会所と考えられます。また遺構とともに7万点を超えるたくさんの遺物が見つかり、6年間かけて接合作業を行った結果2,436個体となりました。この中で注目されるのがベネチアで生産されたレースガラス器で、日本国内での出土は八王子城のみで大変貴重なものです。



主殿調査



レースガラス器

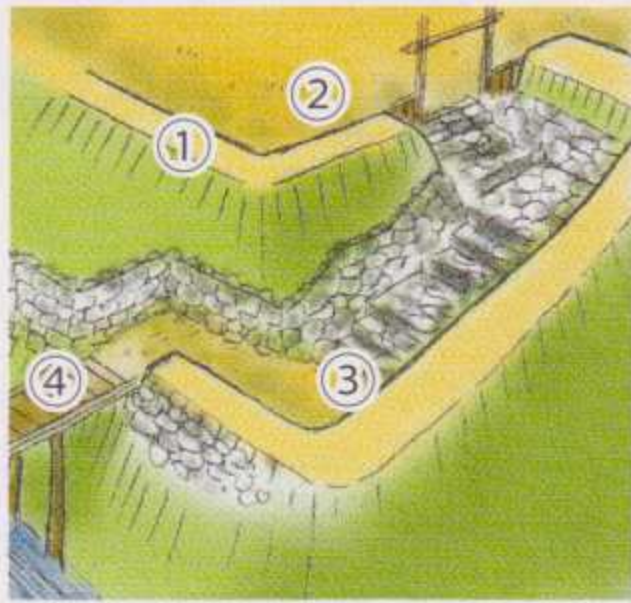
庭園内の池跡調査



五彩皿

# 用語解説

- ① 土塁  
敵の侵入を防ぐために、土を盛り固めて曲輪の周囲を囲んだもの。
- ② 曲輪  
土塁などで囲んで作られた平らな場所。
- ③ 虎口  
曲輪の出入り口。直進できないようにするなどして、侵入しづらい工夫がされている。
- ④ 曳橋  
非常時に壊すことで敵の侵入を防ぐ橋。



# ご注意

- 動きやすい靴と服装で見学しましょう
- 火気厳禁です
- 路上駐車はしないでください
- 動植物の捕獲・採取をしないでください
- 散策路以外は通らないでください
- ゴミはお持ち帰りください
- 危険な生き物（ハチ・ヘビなど）を見かけたら、刺激しないでください
- 夜間の散策は危険です  
日中の明るいうちに見学しましょう

# 見学案内

## 利用について

見学は無料です。パンフレットの配布、スタンプ、トイレの利用時間は以下のとおりです。

- ・管理棟 午前 8:30 ~ 午後 5:00
- ・ガイダンス施設 午前 9:00 ~ 午後 5:00
- ★年末年始（12/29 ~ 1/3）及びガイダンス施設の臨時休館日は利用できません。

日本 100 名城スタンプはガイダンス施設・管理棟に、  
国史跡八王子城跡記念スタンプは管理棟にあります。

## ガイド

管理棟から御主殿跡まで、ボランティアによるガイドを行っています。

- 受付時間 午前 9:00 ~ 午後 3:00
- ★年末年始（12/29 ~ 1/3）は除きます。また、悪天候時などに活動を休止する場合があります。

## 駐車場

- 無料 大型バス 4 台・普通車 50 台  
(障害者用 2 台、思いやり駐車スペース 1 台)
- 利用時間 午前 8:30 ~ 午後 5:00

## アクセス

- 【公共交通機関をご利用の場合】  
JR 中央線高尾駅北口 1 番バス乗り場より西東京バス、「霊園前・八王子城跡入口」バス停下車、徒歩約 20 分
- ★土・日、祝日のみ、「八王子城跡」行きバス、「八王子城跡」バス停がご利用になれます。
- 【お車でお越しの場合】  
圏央道八王子西インターチェンジから高尾方面へ約 10 分。または、圏央道高尾山インターチェンジから、甲州街道を經由して約 10 分。

## 案内図



記念スタンプ

# お問合せ

八王子市教育委員会生涯学習スポーツ部文化財課  
〒192-8501 東京都八王子市元本郷町 3-24-1  
八王子城跡ガイダンス施設  
〒193-0826 東京都八王子市元八王子町 3-2664-2

TEL: 042-620-7265 FAX: 042-626-8554  
TEL・FAX: 042-663-2800

